

立 切 る!

奥山京助範士旗・大谷博信教士杯 争奪

第三十三回三時間立切試合 第十三回女子の部二時間立切試合

平成二十四年一月十五日（日） 秋田県湯沢市総合体育館

主催 湯沢市雄勝郡剣道連盟

夜半からの降雪はやまず、気温は氷点下六度。この厳冬の朝、多くの剣士が集まってくる。間もなく立切試合の開始である。

今回の基立選手

小原 晃	六段（刑務官 秋田県湯沢市）
目黒 大祐	六段（教員 秋田県横手市）
及川 達也	錬士六段（会社員 宮城県仙台市）
滝内 裕之	六段（警察官 福島県福島市）
大西 夏美	五段（主婦 秋田県湯沢市）
佐々木早苗	五段（主婦 岩手県花巻市）

男子は、三時間三十三名、女子は二時間二十二名の挑戦者との、そして己との闘いに挑む。

◇ 開会式は、六名の基立選手入場の後、東日本大震災により亡くなられた方々への黙禱から厳かに始まった。主催者・本郡市剣道連盟会長の前田貞一のあいさつの後、審判長の岩堀透教士八段の説辞、そして基立選手代表の小原 六段による選手宣誓が行われ、熱戦への期待が高まっていく。そして十時二十五分、試合が始まった。



第1試合場 小原 晃 六段

ゆったりとした構えからの攻めと、機を逃さず繰り出される技が滑らかに冴え、勝ちを重ねていく。相手の出端にうまく面に乗れ、あるいは、小手を押さえ、終盤まで負けなしの快進撃である。対戦した相手も、「力みがなく、しなやかな強さがある」と評する。二十八試合目に、前回の基立を最高勝率で立切った原田賢治五段（福島県）に 苦杯を喫するものの、その後もうまく引き出して切れのある技を連発し、高い勝率で三時間を終えた。（三十勝二敗一分）



第2試合場 目黒大祐 六段



力感あふれる剣道が持ち味の目黒六段。一試合目から切れのある技で上々の滑り出しである。決して中心をとらせず、相手に攻めさせない試合ぶりで着実に有効打突を繰り返して行く。特に中盤の十三連勝は、得点三十三、失点五という内容で、この試合にかける意気込みと気迫を強く感じさせるものであった。仲間や同僚、勤務校の剣道部員たちの熱い声援に応え、最後まで自分の剣風を貫いて立切った。(二十七勝三敗三分)

第3試合場 及川達也 錬士六段

少し硬い印象を受けた序盤戦。自分のペースをつかむことに若干の苦心が見られたようであるが、中盤に入り本来の力を発揮し始めた。「くずさないところが強み」と仲間が評するように、中心をしっかりとって相手を攻め、そこから軽快に面に跳ぶ。仕事の合間を縫って確保した稽古時間は、決して十分とはいえない状態だったというが、それでも、粘って粘って立ち合い続ける精神力と体力は、着実に積み重ねてきた精進の証であろう。(十九勝十二敗二分)



第4試合場 滝内裕之 六段

激烈な気合いのこもった一声とともに一試合目が始まった。原発事故にかかわる特殊な業務、そして前の週には 高熱で稽古中断など、鍛錬と調整に苦心してきた。しかし、その不安を振り払うかのような思い切りの良い面が会場を沸かせる。八試合目、九試合目をともに0対1で落とすものの、持ち前のスピードある面技は最後まで冴え、後半十六連勝という驚くべき強さを見せた。

(二十九勝二敗二分)

第5試合場 大西夏美 五段



「眼光鋭く、気迫に押されそうになる」「真っ向勝負の気持ちが強く伝わってくる」ともに、対戦した選手たちの談である。その試合運びは、まさしく機を見るに敏であり、同時に鋭い技が出る、といった趣である。また、一本になるまで打ち続ける、というかかり稽古さながらの動きを見せるなど、気力体力の充実ぶりを見せながら、終盤八試合を負けなしで乗り切った。(十八勝二敗二分)

第6試合場 佐々木早苗 五段

とにかく稽古の虫である、というのが仲間たちの一致した見方である。今回の基立も自ら望んで出場したとのこと。どちらかと言えば華奢な体躯でありながら、その積極性はそれを補ってあまりある。危険を恐れず自分から取りに行く姿勢が目を引く戦いぶりであった。技の尽きたところを逃さずに打つ眼も特筆ものである。昨年に比して 技のスピード・切れともに増している、という周囲の声が納得できる二十二試合であった。(十四勝六敗二分)

◇ 閉会式。 男子では、勝率9割2分4厘の小原晃六段に奥山京助範士旗が手渡された。女子の部では、勝率8割6分4厘の大西夏美五段に直心杯が授与された。挑戦者では、男子は高橋伸友錬士七段が3勝1敗で大谷博信教士杯を獲得、女子では加藤由佳五段が2勝0敗で殊勲賞を獲得した。

見事に立切った基立選手と、それを囲んで労をねぎらう人たちの温かく満ち足りた笑顔が、今年もこの北国の冬を鮮やかに彩った。



文・写真◆木口昌也【立切試合広報担当】